

令和5年度 第3回 みんなの森 ぎふメディアコスモス運営委員会 審議概要

日 時：令和6年2月26日(月) 13:30～15:30

場 所：みんなの森 ぎふメディアコスモス 第一会議室

出席委員：10名 高橋委員長、市來委員、伊藤委員、大角委員、蒲委員、北村委員、
田代委員、出村委員、デュアー委員、松枝委員
(欠席委員：3名 川島副委員長、岩佐委員、鈴木委員)

傍聴者：なし

<議事概要（ぎふメディアコスモスの開館10周年に向けて）>

①これからの10年の基本的方向性の再確認

(委員からの意見)

- ・若い人たちにメディアコスモスをもっと活用してもらうためには、少人数でもいいので、中高生などと一緒に何かクリエイティブな小さな活動、小さな居場所づくりを続けていき、メディアコスモスと関わる人を増やしていくことが有効。
- ・中高生の子どもたちがやりたいことを形にできるようサポートするユースワーカーのような人がメディアコスモスに常駐し、ユースセンターとして位置づけられるといい。
- ・若い人の具体的な声を聞きながら、何かエネルギーな活動を作り出す仕組みがメディアコスモスにあると、そこが居場所になり、この街に住み続けたいという思いにつながる。
- ・シビックプライドを醸成し、岐阜を好きになった子どもたちが岐阜に住むためには、働く場所が必要であり、メディアコスモスの中に地元の企業を紹介できる仕掛けがあるといい。
- ・学校には行けなくとも図書館には行けるという子どもたちの受け皿となることが大事であり、メディアコスモスの基本方針として、不登校支援の場所という位置づけがあるといい。
- ・外国人市民が増加する中、例えば図書館で多言語の資料を増やしたり、外国語での絵本の読み聞かせを開催する、或いはムスリムの方が礼拝できる場所や外国人が必要とする生活用品の物々交換ができる場所などを設けることができれば、外国人にとってもメディアコスモスが居場所になり、活動に参加しやすくなる。
- ・大きな会議の開催ではなく、例えば小さな相談事であっても気軽に借りられるような場所がメディアコスモスの中にあると、高校生や外国人、女性など、誰もが自分もここに居ていいと思える、もっと身近な居場所になると思う。
- ・メディアコスモスの価値を高め、この場所だからできるコミュニケーションや文化の掘り下げを企画できるキュレーター、つまり、メディアコスモスがどう使われることが、そのビジョンを達することにつながるのかということからバックキャストしてキュレーションする観点を持っている人が必要。
- ・誰かが何かやってくれたら集まりたいと思っている人はたくさんいるので、そうした人に情報を与え、グループで応援することによって、市民活動は育っていく。
- ・メディアコスモスの役割として、「誰かが誰かと関わりを持っている」状態を無数に作る事が大事。

- ・市民活動やまちづくり活動には経営力が必要であり、仲間や資金を集め、活動計画を立て、成果を上げる、といったステップを踏み、自らの問題意識を成就することを助けられる伴走機能や中間支援機能がメディアコスモスにあるといい。
- ・市民活動の資金に関して、ふるさと納税制度を活用したガバメントクラウドファンディングのシステムがあるが、利用者の声を聞きながら、もっと誰もが自由に使えるシステムに広げて行ってほしい。
- ・自治会の加入率が低下し、将来的に従来の自治会システムが維持できなくなることも懸念される中、メディアコスモスのような新しいメディアを使って、住民自治・コミュニティの形を再構築していくことが求められる。
- ・自治会では、広報紙の配付といった行政サービスを補完する役割を果たしているところがあるが、その部分は切り離して、自治会が地域での親睦を図り、地域住民の生活・環境・子どもを守るといった本来の役割に注力できるようサポートしていくことが必要。

②コンセプトブック制作に向けた工程案に関する意見交換

(委員からの意見)

- ・市民ワークショップの中では、メディアコスモスの好きなおところを出し合うことも大事だが、未来を構想したり、その構想した未来に自身が責任を持つシビックプライドの主体、コミットメントを作っていくプロセスが必要。
- ・過去の振り返りよりも未来の構想を中心とする内容のほうがいい。過去の振り返りの部分は見開き1ページくらいにまとめて見えるようにする、或いはQRコード等でホームページに飛ばして掲載することで、コンセプトブックのページ数の大半を未来の構想に回せる。
- ・未来の構想というと、果たせることばかりを書こうとしすぎて、「これは書けない」「あれも書けない」となりがちだが、この時点でこう思っていたということでもいいと思う。何か1つくさびを打つことで、その先と比較ができることに意味がある。
- ・メディアコスモスに来ている高校生は、大人以上に周りを見ている。自分が10年後にメディアコスモスとどのように関わりたいか、或いは10年後にメディアコスモスがこのようになってほしい、ということメッセージとして書き込んでもらえるといい。
- ・中高生も制作の中に巻き込んで、メディアコスモスをスケッチしたり、エッセイにしたり、俳句や詩などで表現したものを出せるといい。その子たちにとってもすごく貴重な体験となり、大人だけでは気づかないことも出てくる。
- ・難しいかもしれないが、制作したコンセプトブックは小学生に配布して総合学習の教材として活用できるといい。読んだ人に向けて問いかけるものであれば、見て終わりではなく、使えるコンセプトブックになる。
- ・メディコス編集講座の修了生などと一緒に編集委員会を作って制作することもできるかもしれない。
- ・メディアコスモスに来ればその良さがわかるが、「来ればわかる」では来ない人に伝わらないので、このコンセプトブックは来ない人に向けて制作しないとけない。